

戸山サンライズ

特集

障害のある人の余暇生活

グラビア

第22回障害者による
書道・写真全国コンテスト結果発表

スポーツ

ドイツの地域障害者スポーツと指導者養成

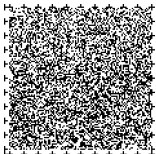
2007 2008

12・1 月号



全国身体障害者総合福祉センター





←これは、SPコードです。
専用読み取り装置の使用により、誌面の内容の音声出力が可能です。

第22回障害者による写真全国コンテスト

銅賞「車イス、マラソンで、力走」(新温泉町浜)
兵庫県 谷村 勝正

力走の迫力はとらえられています。しかし先頭の皆を入れようとはやくシャッターを切ったので、手前の地面がたくさん入って間が抜けて、迫力が減りました。いっそ大胆に上下1/4ずつカットしてワイド画面にしてみたら迫力が出ますよ。不必要なものは入れないことが大切です。



このコンテストは、障害者の文化活動等の推進を図ることで技術の向上、自立への促進並びに積極的な社会参加を目的として、(財)日本障害者リハビリテーション協会(全国身体障害者総合福祉センター)の主催により毎年開催されているものです。第22回を迎えた今回のコンテストでも、全国各地より263点にのぼる素晴らしい作品の数々がよせられました。

目次

2007年12・2008年1月号

■特集：障害のある人の余暇生活

- 人権としての余暇 — 「余暇権」の確立へ向けて ————— 藺田 碩哉 1
 身体障害者への余暇支援をめぐる今日的課題 ————— 茅野 宏明 4
 失敗も学習。コミュニケーションこそ楽しい ————— 杉浦 史晃 8

■「第22回障害者による書道・写真全国コンテスト」結果発表 ————— 11

■スポーツ

- ドイツの地域障害者スポーツと指導者養成 ————— 服部 直充 15

■ライフサポート

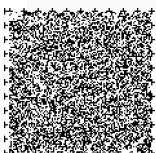
- 「最新福祉用具紹介
 —福祉用具研究開発助成事業で実用化されたもの—」 ————— (財)テクノエイド協会 18

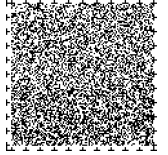
■ライフサポート

- 「社会保険Q&A」 ————— 高橋 利夫 21

■お知らせ

- 「認知症のある人の福祉機器展示館」への招待 ————— 石渡 利奈・武澤 友広 22





人権としての余暇

—「余暇権」の確立へ向けて

実践女子短大生活福祉学科教授
藺田 碩哉

●「忙しい」ことは自慢できることか

「忙しい」という言葉は、日本ではプラスイメージを持って語られる。人を紹介するときには「たいへんお忙しい方です」という言い方がほめ言葉として使われる。逆に「この方はたいへん暇な方です」などと言おうものなら、その人は間違いなく腹を立てるだろう。有能な人は引く手あまたで忙しいに違いなく、それに対して暇を持て余す「ヒマ人」とは、社会に役立たない無能な人々の代名詞と見なされてきた。

しかし、よく考えてみると、忙しいという用語の「忙」の文字は心が亡ぶという意味に他ならず、「忘れる」の「忘」とも通じている。心を失うほどあくせく働くことに、それほど人間的な価値があるのだろうか。人々の暮らしが豊かになり、人の幸福が「モノ」だけでは測れないことに多くの人が気づき始めている。モノから「ココロ」への転換が言われる中で、人生のゆとり感の土台となるはずの余暇と遊びに関心が向けられるようになってきたのは当然のことだろう。

物質的な豊かさの成果の一つとして寿命の大幅な伸びがもたらされたことも余暇への関心を高める一助となった。人生の終末期に約束された膨大な自由時間、その過ごし方次第ではその人の幸福感に大きな違いが出てくる。障害があるために労働から隔てられている人々は、当然に余暇を多く持つことになるが、それは決して無意味な余暇ではなく、生きることの価値を確認する貴重な自由時間となりうる。余暇や遊びを無視して多忙に働いてきた人々が、改めて余暇を生活の重要なテ-

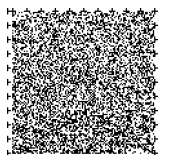
マとして意識し始め、「余暇人」たる高齢者や障害者の生き方を見直そうとしているのが今日の状況である。

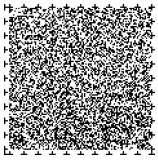
●世界人権宣言とレジャー憲章

「すべて人は、労働時間の合理的制限及び定期的な有給休暇を含む休息及び余暇をもつ権利を有する。」

第2次世界大戦のすさまじい破壊を経験して、世界の人々は平和と人権の尊重こそが人類の未来を作る基盤だとの思いを深くした。戦後間もない1948年に国連が採択した「世界人権宣言」にはそうした思いが込められている。そしてその第24条がここに上げた「余暇権」の規定である。休息と余暇が人間らしい生活を支える基盤となるというのは至極当たり前の考え方のはずではあるが、しかし、休息と余暇を無視した長時間労働が資本主義体制を支えてきたのは紛れもない事実であり、その果てに各国の利害が衝突する戦争が起こったのである。戦争の遂行の中では余暇権など少しも顧みられることがなかったのは戦時期日本の「月月火水木金金」のスローガンを見ても明らかである。

余暇権の内容をさらに精緻なものとした宣言が、戦後、欧米で発展したレジャー・運動の中から生まれている。国際レクリエーション協会（現在は世界レジャー・レクリエーション協会）は1970年にジュネーブで会議を開き、その討議の結論として「レジャー憲章」を採択した。その前文には、レジャーと





レクリエーションが今日の生活様式に欠かせない欲求の補償をもたらすばかりでなく、人間の天賦の才能を発動させ、人と人、世界の国々の間に良き人間関係をうち立てることについて重要な役割を果たす、と述べている。その上で、あらゆるレジャー・レクリエーションに参加する権利やレジャー教育を受ける権利、レジャー環境の整備の必要性を条文化している。

欧米先進国では、この宣言が示す方向に沿って、とレクリエーションの拡大と充実が進んだ。1ヶ月にも及ぶ長期休暇が定着し、地域のレクリエーション環境の整備、スポーツや文化活動の活性化が地域行政の大きな課題となっている。しかし、わが国では労働時間の短縮が思うように進まず、バブル以降の不況期には残業や休暇の返上が当たり前になってしまった。休みを取れずに「過労死」する人が後を絶たない「働きすぎ大国ニッポン」での余暇権の主張は、いかにも空しい響きしか感じられない現実がある。

●劣等処遇原則と余暇・遊びの軽視

社会福祉の領域では、余暇や遊びはどのように取り扱われてきたのだろうか。世界でもっとも早く近代的な社会福祉制度を立ち上げたイギリスで、社会事業の出発点を画するのは新救貧法（1834年）の成立である。これは早く17世紀初頭に定められた「救貧法」（1601年）が農村社会を背景とする貧民対策であったのに対して、産業革命後の資本主義体制の確立を背景に制定されたものである。

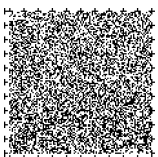
救貧法は貧民一般の救済を目的としたというよりも、労働能力のあるものを労働へ駆り立てるといふねらいを持っていた。旧救貧法でも、その特徴は浮浪と乞食の禁止と処罰であり、労働能力のあるものを就業させ、無能力者を保護することを各地の教区に命じたものであった。新救貧法においても貧困の原因を社会に求めるのではなく、貧困は個人の責任であり、そこから脱出するために勤勉に働く

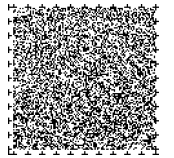
ことこそ個人の道徳的義務であるというのが立法者の見解である。そこで、貧民を救済するに際して、救済の水準を独立して生活している一般の勤労者より低く押さえることが求められた。もし過度の救済を行えば、貧民はそれに依存して自ら働くことを放棄してしまうだろうと考えられたのである。いわゆる「劣等処遇原則」である。

救貧法が実のところ「労働のすすめ」であったのなら、その内容に「余暇や遊び」の抑制が盛り込まれるのは当然の流れであった。劣等処遇とは生活の余裕部分である余暇や遊びを取り上げることなのである。余暇や遊びはまともに働く勤労者にこそふさわしい「贅沢」であって、社会の恩恵にすぎた救済を受ける人々がのんびりと遊び暮らしているのでは真面目な勤労者は納得するはずはない、という論理の展開となる。イギリスに始まる社会福祉制度はやがて先進各国に普及して行くが、「働けない」「働かない」人々に対する福祉サービスは、働いている人々に遠慮した低水準のものに押さえ込まれるという「劣等処遇」が長く続くことになった。一般の市民はもとよりサービスの利用者自身が、それを当然のこととして受け入れてきたのである。社会福祉施設といえば、全体に生真面目で禁欲的な運営がなされ、遊びやレクリエーションは二義的なものとされ、レクリエーションと言えば集団的な遊戯がわずかに認められるという状況は、つい最近まで社会福祉の常識であった。

福祉サービスの受給者が基本的には労働に向かって動機づけられてきたことは、身体障害者の場合にも明確である。戦後に定められた「身体障害者福祉法」の第2条には、こう記されていた。

「すべての身体障害者は、自ら進んでその障害を克服し、その有する能力を活用することにより社会経済活動に参加することができるように努めなければならない」。この要請に添って「授産所」が設けられ、それぞれの能力に応じた「働き」ができるように支援がなされてきた。ここでは遊びやレクリエーションは、よりよく働くための準備、





あるいは働いた後の報酬としてしか、その存在を承認されない。遊び呆けている輩（ヤカラ）は社会の落伍者なのである。

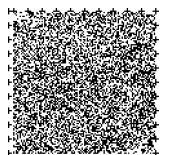
●余暇におけるノーマライゼーション

社会福祉の中の遊びやレクリエーションが労働の呪縛を脱してそれ自身価値あるものとして認められるようになるには、経済的な発展と成熟が必要だった。第2次大戦後、欧米と日本の先進国では経済の高度成長が進み、所得が増加し、生活水準が著しく上昇した。それはまた、栄養・公衆衛生・医療の水準を押し上げて、その結果、人類社会がかつて経験したことのない寿命の伸びがもたらされた。高齢社会の到来である。社会福祉サービスの力点は、貧困の救済や児童の健全育成、障害者の生活扶助といった従来の対象から、増大する高齢者の生活と生きがいを支える、一般市民向けのサービスに拡大していく。社会福祉サービスとは、社会的少数派である何らかのハンディキャップを負った人たちに向けられた「弱者救済」の特別プログラムではもはやなく、誰もがその生涯の後半期に否応なく持つことになる高齢期（それは多かれ少なかれ身心の障害を持つことでもある）を快適に生きるために必要な市民サービスの1つとなった。

ノーマライゼーションの考え方はこうした事情を背景に生まれた。ノーマライゼーションとは端的に言えば「劣等処遇の克服」ということに他ならない。福祉サービスが社会からいわば逸脱した

「向こう側」の人々のためにあるのではなくて、他ならぬ自分たちのためのものであるという発想の転換は、高齢者も障害者も、だれもが当たり前の（ノーマルな）生活を享受する権利があるという主張を生み出した。障害があるからといって施設に囲い込まれ、一般の市民が日常的に享受している便利な生活を拒まれるのは、明らかに不当である。車椅子で街に出て、買い物やレジャーを楽しむことができ当然ではないか、という考え方は高齢社会の進展とともに多くの人々に支持されるようになった。

ノーマライゼーションは、余暇と遊びを社会福祉に根づかせる上で、きわめて重要なコンセプトである。ノーマライゼーションは、これまで「贅沢品」として排除されてきた余暇と遊びを、社会福祉サービスのメインテーマとして捉え直すことだと言ってよい。余暇と遊びには人々の自由と生きる喜びの実現という性格がある。逆に言えば、余暇と遊びがどの程度獲得されているかということそのものが、ノーマライゼーションの実現度を示す指標であると言ってもよいだろう。障害者支援に欠かせないテーマとして余暇生活の充実を位置づけ、その具体化であるさまざまなレクリエーション活動の活性化に努めることがいま、切実に求められている。



身体障害者への余暇支援をめぐるときの今日的課題

武庫川女子大学教授
茅野 宏明

1. 自活訓練と余暇

(1) 自活訓練における余暇支援の現状

先天的、あるいは後天的に身体的障害をもつ人々は自立して生活する訓練(自活訓練)を受け、在宅へと生活の拠点を移行していきます。1990年の福祉関係八法改正以降、地域福祉や在宅サービスに向けた支援は、各種制度改革により本格的に始まっています。福祉サービスを受ける利用者だけでなく、国民一人ひとりの意識変化も期待されています。

一方、レクリエーションプログラムにかかる費用は利用者の実費負担が原則となり、通所介護福祉施設などではレクリエーションプログラムの一部提供が困難との声を聞きます。利用者の実費負担や施設で負担するなど工夫している現状が報告されています。

(2) 余暇の意識づけ

自活訓練を通じて利用者のQOLを高めるには、ADL・労働・家庭生活をはじめ、趣味・旅行・スポーツ・文化活動などは欠かすことのできない構成要素ⁱになっています。余暇(自由時間)の過ごし方もQOLに影響を与えることになります。

実践活動を通じて、余暇支援は自活訓練同様に、利用者の意識を変える過程が必要であると、痛感しています。余暇について理解し、余暇の過ごし方のいろいろを知ること、実は余暇支援の一つと言えます。To have (何を持っている、何をしている)ではなく、To be (どのように過ごしている)ⁱⁱが大切といえます。自活訓練における余暇支援では「余

暇についての理解を深める」ことの方が、「テニスをしている」とか「絵を習っている」とかよりも大切と言えます。

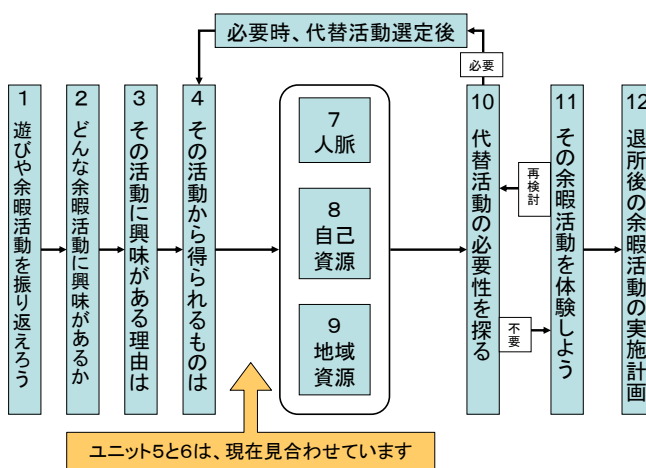
2. 余暇教育プログラム

(1) 概要とユニット構成

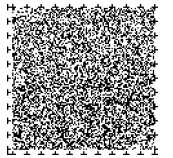
1989年、アメリカ合衆国ノースキャロライナ大学レクリエーション・障害研究所(所長バロック(Bullock, C.)博士)が開発したプログラムⁱⁱⁱを、日本の風土や慣習あるいは利用者の状況などに適応しながら発展しているプログラム^{iv}です。社会生活への復帰を目的とし、興味ある余暇活動を生活する地域で実践することを到達目標としています。

ワークシートの問いに答えながら、自分の興味や関心を知り、やりたいことを探し出して、実施計画を立てます。現在のワークシートは12ユニット(図1)から構成されています。

図1 ユニットの構成



現在、ユニット5(活動分析)とユニット6(阻



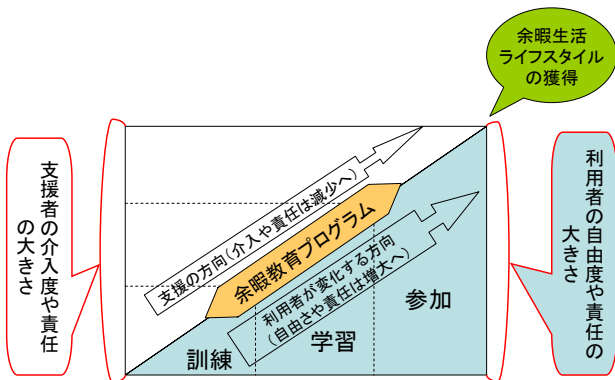
害要因の分析)の使用を見合わせている理由は、①選択した余暇活動を分析することの意味を理解しづらい；②阻害要因を考察する過程で徐々に志気が下がる、という利用者が多かったためです。活動の特性や阻害要因の解決については、他のユニットで補えますので、現在は実施していません。

本プログラムの最も大切な視点があります。原著 "Leisure Education Program" を『余暇教育プログラム』と邦訳しました。教育とは「教える」となりますが、educationの語源は「人の能力を引き出す」ことです。本プログラムに関わる支援者は、利用者の余暇能力や生活力を引き出すことを念頭に関わることが非常に大切です。

(2) セラピューティックレクリエーションサービスとの照合

代表的なセラピューティックレクリエーションサービスモデル^vには、余暇生活ライフスタイルの獲得に向けて：①訓練（治療）段階；②学習（余暇教育）段階；③参加（レクリエーション参加）段階という3段階^{vi}があります。このモデルに余暇教育プログラムを照らし合わせた結果を図2に示しました。余暇教育プログラムは学習段階に相当しますが、厳密に言えば『訓練段階の後半～参加段階の前半まで』の範囲も含めます。

図2 TRサービスモデル上における余暇教育プログラムの位置



(3) 利用者の変化

余暇教育プログラムに参加した利用者の変化をまとめました(表1)。利用者がやってみたい活動や種目を、利用者自身で実際に体験し、『プラス

感情』を得られるかどうかを確かめることが変化の第一歩です。楽しさ、嬉しさ、喜びなどの盛り上がった気持ちは『プラス感情』の代表ですが、充実感や達成感、あるいは満足感なども『プラス感情』には欠かせません。

体験中や体験後に得られたプラス感情が：①問題を解決すること；②起こりうる事態を予測すること；③臨機応変に行動することなどの能力を引き出します。これらの能力が養われると、やがて利用者は自信や自尊心をもつ(=承認の欲求を満たす)こととなります。

表1 利用者の行動に見られる変化

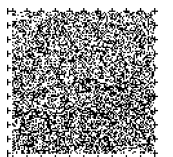
充実感や達成感など	希望する活動を模索する過程で生じる充実感や達成感などが、やる気や楽しさを生み出すきっかけになる。
問題解決能力	自分で選んだ活動の実戦に向けて、自らがさまざまな阻害要因を解決する問題解決能力を身につける。
予測力や対応力など	起こりうる事態に対する予測力や対応力などを身につける。
活気ある生活	希望する活動を徐々に実現する過程や実現したことが、自立生活に活気をもたらす。

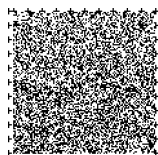
人間の動機づけにつながる行動をマズロー(Maslow, A.H.)^{vii}は：①生理的欲求；②安全の欲求；③所属と愛の欲求；④承認の欲求；⑤自己実現の欲求という、5つの基本的欲求の階層で示しました。特に余暇教育プログラムでは、利用者が『④承認の欲求』を自分なりに満たすことが重要となります。

その後、承認の欲求に対する満足度が高まると、自己実現に向けた行動につながります。このような動機づけに取り組んでいるスタッフについて解説します。

(4) 余暇教育プログラムのスタッフ構成

余暇教育プログラムのスタッフは次の三つに大別できます。①ファシリテーター；②ピアアドバイザー；





③プログラマーです。それぞれの役割は表2のとおりです。

ファシリテーターは受容と傾聴を基本として利用者と直接関わります。先述の図2にしたがって、利用者への介入の度合いを調整しています。大まかには、①じっくりと聴き、ラポールを構築する；②互いに情報を収集・提供しあう；③見守り、という三つに分けられます。この三つを意識しながら関わるのがファシリテーターに求められています。また、その他のスタッフもプログラムを運営するにあたり、大変に重要であることは実践的研究活動から痛感しています。この重要な点を含めて、最後に余暇支援の要をご紹介します。

表2 スタッフの構成

分類	役割(★印は担当者)
ファシリテーター	利用者と直接関わる。傾聴と受容を中心に、利用者の気持ちや思い、アイデアなどを聴き、次回までにすること(短期的目標)を尋ねる。 ★学生、実習生、施設の支援員、筆者
ピアアドバイザー	ピアの立場から、利用者の不安などを払拭するために、体験談や対処法、現実場面などについての相談を受けたり、助言したりする。 ★元利用者、利用者
プログラマー	ファシリテーターやピアアドバイザーの報告や助言から、次回や今後の到達目標や支援の方向性などを計画する。 ★筆者

3. 余暇支援の要

(1) ピアアドバイザーの重要性

平成9年から始まった余暇教育プログラムは10年を迎えています。その間、幸いにも本プログラムを終了して退所された方々が、時折本プログラムを訪問してくれたり、ブログで現況を紹介してくれたりしています。

特に、退所後も本プログラムにピ

アアドバイザー(ボランティア)として関わっている福田秀雄氏(車いす使用者)は、旅の企画・ユニバーサルデザイン・バリアフリー調査・児童育成活動などの活動をされています。また、公的組織の委員をされるなど、その行動範囲は拡大する一方です。

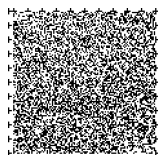
福田氏によるピアアドバイスは、『介助依頼が100%成功するコツ』、『電車やバスの利用』、『カニを食べに行こうツアー』、『うまいラーメン屋』、『介助浴のある温泉宿』、『京都一人旅のお薦めルート』、『外出中、いざという時に便利なもの』、『芸術鑑賞のすすめ』、『車いすユーザー向けの情報雑誌』、『海岸へ行って、海に入ろう』、『旅にハプニングはつきもの』、『突然の雨にあったら』、『とにかく外へ』など多岐にわたっています。

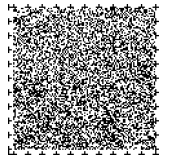
アクティブリスニングを使用しながら、ピアであるからこそできる共感や情報提供、時には激励、そしてアドバイスは、本プログラムには欠くことができません。福田氏の関わりを側で見つつ、ピアアドバイザーの重要性を痛切に感じています。本プログラムでは、引き続き可能な限りピアアドバイザーを迎えたいと考えています。もし、ピアアドバイザーを迎えることができなくなった場合、他の利用者を交えたディスカッションなどを取り入れようと考えています。

(2) 学生の重要性

現在、7名(学部生と大学院生)がファシリテーター(ボランティア)として関わっています。利用者からすると、①同世代；②子供世代；③孫世代のいずれかに該当します。ファッションのこと、キャラクターのこと、流行していること、学校でのこと、将来の夢のこと、恋人のことなど、幅広い関心事について世代を超えて共有し共感することができる機会です。

また、利用者からは、「学生の若さから元気をもらえる」とか、「新鮮さから元気をもらえる」などのプラス志向の感想をもらっています。また「だから毎週会うのが楽しみです」という声もいただいています。気持ちが明るくなることにより、次





のステップを踏み出そうとする気持ちが湧いてくる様子です。

受容と傾聴を基本に、学生や院生が自分なりのスタイルを身につけながら、利用者の退所後のことを念頭において関わっていることが、本プログラムの大きな支えになっています。ピアアドバイザー同様に、学生なしで利用者の心の活性化はできないと断言できます。

これから余暇支援を考えている方は、サポーターとして心理学系、社会福祉系の大学や短大との連携をとることをおすすめします。学生なしでの余暇支援は困難です。学生たちの存在がどれだけ凄いかを身にかけている筆者からのアドバイスです。

(3) ネットワークと拠点の活用

実践活動を通じて、ネットワークと拠点を積極的に活用しています。本プログラムで活用しているネットワークや拠点は次のとおりです。

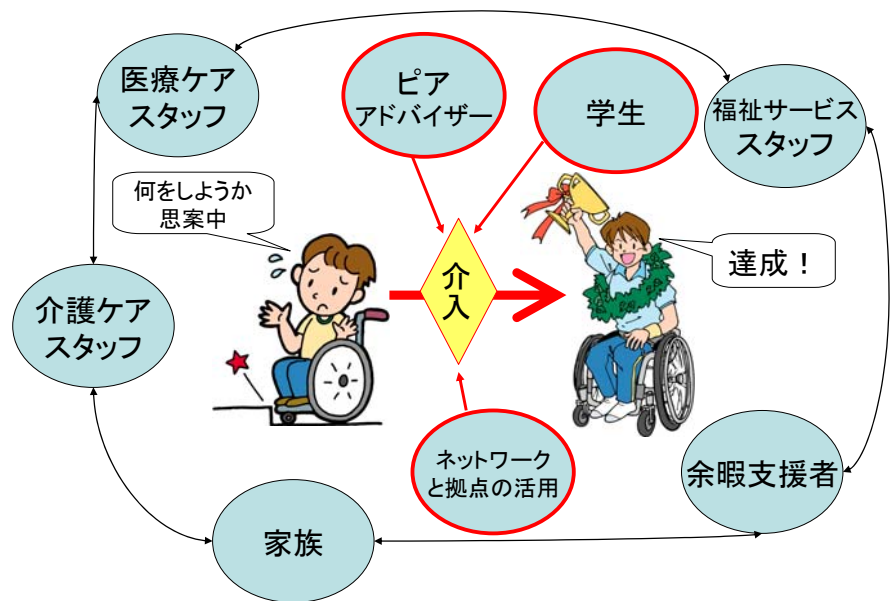
都道府県・指定都市の

- ・ 障害者スポーツセンター、障害者福祉センター、交流センターなど
- ・ 障害者スポーツ指導者協議会
- ・ レクリエーション協会
- ・ 障害者スポーツ協会
- ・ リハビリテーションセンターなど
- ・ 福祉用具展示ホールや相談窓口など
- ・ 広報（社会福祉協議会の広報も含む）
- ・ 福祉サービス関連のNPOのホームページ

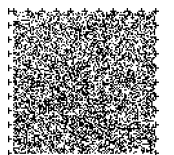
など各拠点の連絡先（電話、担当者、電子メールなど）を調べておくといへん便利です。ネットワークや拠点は上記だけに収まらないと思います。知人、友人、ショップ、職員なども有力な情報源です。

最後に、代表的な支援体制に、筆者が実践する身体障害者を対象にした『余暇支援の要』を付け加えた現在の支援体制を図3に示しました。今日的課題の提供が読者の実践活動の参考になることを祈っています。

図3 利用者の余暇生活を支援するネットワーク



- i 上田敏(1987).『リハビリテーションを考える』、青木書店。
- ii (財)日本レクリエーション協会監修(2000).『福祉レクリエーション総論』、中央法規出版、p.23の注釈に詳細。
- iii Bullock, C., et al.(1989). Community Reintegration Program. The University of North Carolina at Chapel Hill: NC.
- iv <http://LEEPnet.com/>にて最新バージョンの無償配布
- v (1)キャロルA. ピーターソン他(1996).『障害者・高齢者のレクリエーション活動』、学苑社。(2) Peterson, C.A.&Stumbo, N.J. (2000). Therapeutic Recreation Program Design(3rd. ed.), Allyn and Bacon: Boston, MA.
- vi 三段階の紹介については、①吉田圭一他著(2007).『三訂版レクリエーション活動援助法』、ミネルヴァ書房；②福祉士養成講座編集委員会編(2007).『第3版レクリエーション活動援助法』、中央法規出版；他レクリエーション活動援助に関する多数の著書に紹介。
- vii マズローA.H.(1987).『改訂新版人間性の心理学』、産能大学出版部。



失敗も学習。 コミュニケーションこそ楽しい

話し手：岩澤 眞里子さん、岩澤 英喜さん
聞き手、文構成：ふれあいサポート研究所 杉浦 史晃

身体障害を抱える方がどのようにレクリエーションを楽しんでおられるか、今回は脊椎損傷の後遺症を抱え、現在はソーシャルワーカーとして務める岩澤眞里子さんご主人の英喜さんに、眞里子さんご自身の、またお二人のレクリエーションである旅行について伺いました。（本文中、眞＝眞里子さん、英＝英喜さん、杉＝杉浦です）

先日、箱根に行ってきました

杉：旅行に行くのが二人の一番の楽しみと聞きましたけど……。

英：先日は箱根に行ってきました。一昨年の夏に杉浦さんとも行った所の近く。今回は雪景色も見られました。（※英喜さんと杉浦は、とあるレクリエーション団体に籍を置いています）

眞：今回はとても良かった。インターネットの旅行サイトで「新築」で検索して、新しめのところを狙ったんです。オープンしたてのロジなら、バリアフリー、高齢者対応になっているかと予想したら、その通りだった。それなりにお高くつきましたけど（笑）。

英：温泉なので日本家屋なんですけど、日本家屋によくある、かまち（段差）がなかったです。新しいからですね。

※かまち《框》とは、床の間や玄関など、床に段差があるとき、高いほうの床端に取り付ける化粧用の横木のこと。また、窓や扉本体、障子などの周囲の細長い枠と呼ぶようです。

眞：ネットで探すときに、温泉宿としては、「障害者対応」というより、部屋に露天風呂が付いている、新しい宿ならいいかな、と思ったんですよ。お風呂にTVが付いていました。見ているとのぼせちゃうんですけどね（笑）。実際、手すりもちょうどいいところにありました。



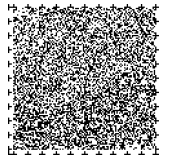
杉：そのあたりは、ユニバーサルデザインになっている、ということかもしれないね。みんなにやさしい設計になっている、と。

眞：お客さんに繰り返し利用してもらいたい、リピーターを作りたい、というのが旅館側の願いでしょうし、その点で不自由な人が発想する「便利」が、健常の人の役に立つという風に考えると、ここにはビジネスチャンスがある、とも言えますね。

高いお金を払って失敗する経験

杉：ネットでだいたいの情報を仕入れられますか？

眞：まず行きたいところをネットで検索しますね。
“2ちゃんねる”で障害者への対応の悪い宿の情報とかを憂さ晴らしのように書き込んであることもありますけど、悪口を読みたくないというのもあるし、そういう情報ではなく、いわゆる普通にネット検索で見つけ出す、自分で見つけ



るということを楽しんでいる気がします。

ネットで調べて電話をかけて「車椅子の障害者なんですけど」と言うと尻込みする宿もあります。「行こうと思うんだけどどうだろう?」と聞くとそういう対応が多いです。「予約しました、お金を振り込みました」みたいにすると、対応しようという姿勢になっている気がします。

ただ、年末に行った所（島根）もリニューアルしたばかりだったんですが、そこはベッドではないのは仕方ないとしても、布団を高く積み重ねられなくて、選択を失敗したと思いました。翌日、食事をしに行ったロッジで部屋を見せてもらったとても良かったので、前日のところをキャンセルして、宿換えをしました、キャンセル料を支払わなければならなかった（多少おまけしてくれました）けど、身体は我慢できないから、だんなさんにも怒られながらも、お願いして……。

杉：だんなさんとしては、そういう体験は面白いの？

英：その場では面白いかと思わないけれど、ある程度時間が経ってから冷静になって、あれは良かったとか失敗だったかと思えますね。

眞：そんな風に失敗することは、ようするに学習だし、それは障害を抱えていようとまいとあることですよね。だから、どこの宿がいいとか悪いとかの情報を広めることも大切なかもしれないけれど、高いお金を払って失敗している経験を、そう易々と提供しないぞ、同じ轍を踏め（笑）みたいにも思うんですよね。まあ、結婚してだんなさんがつきあってくれるから、それができるといのは大いにありますけどね。独り身の時より気持ちが解放されている気がします。

障害者の男性で結婚する人は以前からもけっこういたように思いますけど、私も含めて、同僚もそうなんですけど、障害を抱える女性も結婚するようになってきた気がするんです。それは福祉に従事する男性が増えてきていたり、社会の障害者への理解が広がってきたりしていると

いうのもあるんじゃないでしょうか。つきあったり、結婚したりすることによって、健常者とは体験できないことを体験できて面白いんじゃないか？ みたいに思うこともあります（笑）。



やっぱりコミュニケーションですよお

杉：好きな人と一緒にいられるってことはいいよね。旅行はまさに一緒にいるために行くようなものですものね。で、実際に年に何回くらい旅行に行かれるのですか？

眞：正月、GW、夏休み、年末という程度ですけど、3日ほど休みが続けて取れると、飛行機に乗りたいな、って時々思います。本当は休まず仕事するのが一番いいのかもしれないけど、「旅行にチャレンジする」みたいな気持ちもあるから、年に何度かしかかないだんなさんの連休は私も休ませていただきます、みたいに思っています。

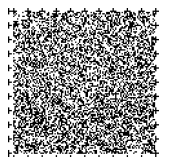
杉：有給休暇は権利だから（笑）。

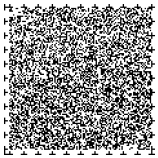
眞：杉浦さんはレクリエーションの先生だから、そう思うんですよ。

ところで、レクリエーションって何なんですかね？ 私にとってレクリエーションってコミュニケーションだと思うんですよ。

英：旅先でも彼女は知らない人に声をかけて、人との接触を求めるんですよ。

※店に入ってくる常連のお客さんに、「かっこいいバッグですねえ」と明るく声をかける眞里子さんは、インタビュー中、何度も「やっぱりコミュニケーションですよお」と言っていました（笑）。





～ ここであたらこうたら、杉浦がレクリエーションについて講釈を垂れますが、誌面では省略させていただ

て、その後の話を続けましょう～

杉：旅行のポイントはどんなところにありますか？

英：トイレと風呂に自分で入れるかどうかのポイントですね。宿の従業員が優しいとか手厚いとか、そういうことではなくて、客が自分で出来るように設備が整っているってことが大事。それによって、自分の安心基地ができるんでしょうね。

眞：わがままかもしれませんが「バリアフリーではないけれど、一生懸命頑張らせていただきます」だと、こちらが宿の人に気を遣わなければならぬので、それよりも設備が充実している欲しいんです。そういった設備が整っていることが、現状ではお金がかかるのかもしれないけれど、旅行を楽しむためにも「そのお金を貯めるぞ」という目標を持てるかもしれませんね。

障害を抱えている日常を抜け出したい

英：旅行は、行っている間だけじゃなくて、計画しているときにすでに「楽しい」は始まっていますよね。行きたいなあと思って、ノートパソコンを開けたときにすでにワクワク。僕は計画好きだし、計画通りに効率よく物事を進めるのが好きなのですが、そうすると彼女の楽しみを奪うことにもなるので、なるべく彼女に決めてもらうようにしています。

眞：私は計画をひっくり返すことが多いから、臨機応変にするしかない(笑)。でもハプニングが

大切なんですよね。ハプニングを楽しむためには外に出て行かないといけないし、出会いが必要です。

杉：それこそが旅行なんだろうね。

そういうことで「生き返る」というか、それがまさにレクリエーションと言えるんだろうけど、何がレクリエーションで何がレクリエーションじゃないかってのは、実はどうでもいいのかもしれない(笑)。たとえば甲子園を目指している高校生が野球に取り組んでいるのは、本人達にしてみれば「レクリエーションじゃない、真剣なんだ」って怒るかもしれない。目標に向かって夢中になることが人には必要なことなんだろうね。

眞：楽しむってことは、プロセスですよ。旅行が終わる頃って寂しいですもの。

障害を抱えていて、身近な人に、自分でやらなくてはいけないことをやらせてもらう、それはある意味負い目だったり、辛いこともあるんだけど、二人が対等にお客さんになれる旅行は、現実から逃避できるぞ、っていう気持ちもどこかにあるのかもしれない。日常から脱したいっていう気持ち。だからこそ、宿の人に不自由さを感じさせないで欲しいって思うのかもしれない。

杉：日常から脱したいっていう気持ちを自分で創造的に乗り越えていこうというのがレクリエーションでもあるから、それでいいんだと思いますよ。理屈じゃなくて、好きだと感じたことを、人はしたいし、追求したいんでしょうね。

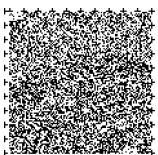
(2008年1月16日 横浜 ピザハウス「リベルテ」にて)

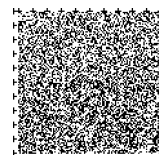
対談者プロフィール

岩澤眞理子さん：19歳の時の頸椎損傷により車いす生活となりますが、リハビリを経て留学した国で障害者の生きる力を目撃し、現在はソーシャルワーカーとして中途障害を抱える方々の支援、相談業務をしています。障害者センター職員の紹介で、障害者スポーツ指導者である英喜さんとの出会い、2006年に晴れて結婚されました。

岩澤英喜さん：本業の不動産業のかたわら、スポーツボランティア、レクリエーション・ワーカーとして障害の有無にとらわれない援助をされており、幅広く活躍されています。

杉浦史晃さん：横浜にあるレク団体の同じ理事として、英喜さんと行動を共にしています。お二人の結婚式では他理事とともにゲーム進行役を務め、お祝いに華を添えました。





第22回 障害者による書道・写真全国コンテスト結果発表

「障害者による書道・写真全国コンテスト」は、障害者の完全参加と平等をスローガンとした1981年の国際障害者年を記念して、1984年に東京（新宿区戸山町）に設置された全国身体障害者総合福祉センター（戸山サンライズ）が主催するもので、障害をもつ方々の文化・芸術活動の促進と技術の向上、またそれらの活動を通じた積極的な自己実現と社会参加の促進を目的に1986年から行っております。

昨年度の第21回コンテストには、1,000点を超えるご応募をいただき誠にありがとうございました。

今年度は22回目となり、写真の部に昨年度設置した「ポートレートの部」に加え「携帯フォートの部」を新設し、身近なツールである携帯電話を使用したコンテストを実施いたしました。全国からの作品の応募数は、書道の部807点、写真の部263点（うちポートレートの部39点、携帯フォートの部15点）、合計1,070点という多数のご応募をいただきました。作品を出展していただいた皆様にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

それだけに入賞を決定する審査会は非常に激戦となりました。そのような中から、審査員の先生方の目に留まる素晴らしい作品を制作されました入賞者の皆様のお力には心より敬意を表します。ここに入賞作品を掲載いたします。

書道の部

【金賞】

等	氏名	題名
北海道	木間 登	書道 漢詩
滋賀県	七里 大輔	人が好きな偏が好き「信」が好き
奈良県	向井 隆裕	「わ」
長崎県	松岡サナエ	夏歌
長崎県	宮崎ミヤ子	顔真臨
宮崎県	金子 昭浩	青春時代
仙台市	齋藤さつき	看脚下 足元をみなさい
静岡県	渡邊 航輝	「ひらめ」
浜松市	神谷かず子	游神
福岡市	小田 隆	和歌

【銀賞】

県名等	氏名	題名
岩手県	山内 梨乃	心
埼玉県	内田 亮	伝説
神奈川県	橋本 友実	麦わらぼうし
岐阜県	和田 紘尚	鳥
京都府	吉田 清	蔵
奈良県	池田 真一	動
徳島県	田村耕一郎	美人董氏墓誌銘 艶龍章鳳采砌
徳島県	出葉絵梨奈	人
熊本県	跡部アサ子	山吹
大分県	荻 健太郎	疾風
宮崎県	寺田 妙子	こすもす
仙台市	笹木 和江	啄木のうた
さいたま市	江川 洋子	温かな心
大阪市	杉本美代子	村情山趣
福岡市	廣田 禎二	輪

【銅賞】

県名等	氏名	題名
北海道	小林 博之	愛閑静
岩手県	橋 雅彦	天気清和
岩手県	加藤 和夫	現実的「夢」
岩手県	千葉 礼子	昭和
茨城県	木内 文雄	うみ
茨城県	永山 弘美	大
群馬県	白沢 丈夫	かに
群馬県	前原 隆	徳
埼玉県	峰島 美子	カメ
千葉県	山口 芳枝	けん（健）
千葉県	加藤みさ子	瀑水近天河
千葉県	山田 将義	吉
神奈川県	仲井萬里子	百人一首（柿本人麻呂）歌
神奈川県	小林 早苗	くずもち
三重県	林 みどり	さえた空
京都府	藤岡 弘子	本や
奈良県	藤井あずさ	はやぶさ
奈良県	前田 節子	朝
鳥取県	角 美和	だれかにあいたくて
徳島県	岩山 健大	考える子
宮崎県	川野 美菜	「うみ」
宮崎県	坂下フユ子	「希望」
宮崎県	立川 智子	良好
宮崎県	澤田 博美	大都会
沖縄県	安谷屋めぐみ	恵

写真の部

【金賞】

県名等	氏名	題名
青森県	能登谷正光	赤武者
岩手県	及川 卓郎	夏の空
宮城県	高橋 松夫	水掛けみこし
福井県	坪田 時男	マイホーム
岐阜県	勝野 峯夫	“稔り”
広島県	向井 昌彦	農婦とその子
山口県	大上 稔	110ハードル競走
山口県	富永 勝之	霧の朝
徳島県	K. I.	はず
佐賀県	久原 国彦	祐徳稲荷神社の田植え 巫女さん
福岡市	斉藤 新	落日の棚田

【銀賞】

県名等	氏名	題名
北海道	加藤 博	雲海
岩手県	菊池 英機	ふうふう あっちっち
岩手県	菊池 政男	立いっぶく
群馬県	廣田 新一	ねこじゃらし
群馬県	小林 正義	母と子
群馬県	笹口 徳子	秋空
長崎県	片岡 友衛	水掛け地藏まつり
広島市	鍵本 金六	なあーに？
北九州市	香田 俊雄	すばやさ

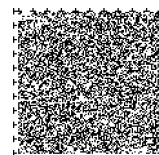
【銅賞】

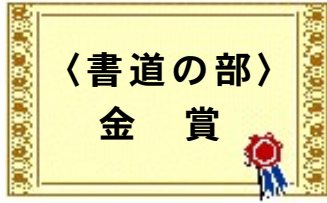
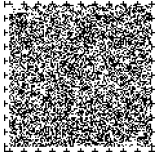
県名等	氏名	題名
岩手県	森田 隆	愁い
岩手県	大山 利明	弾け散る
宮城県	小山花菜美	光と泳ぎたい!!
群馬県	春山三喜雄	花びらの色の変化
千葉県	唐澤 菊枝	秋の海
神奈川県	志村 勇一	鯉のぼり
石川県	井田 妙子	チュウリップ
岐阜県	川尻 欽士	鶏飼絵巻
岐阜県	白井志希子	庭に天使
滋賀県	宮澤 恒平	ぼくのトマト
兵庫県	谷村 勝正	車イス、マラソンで、力走
鳥取県	生越 真弓	あなたを見て
島根県	永瀬 雅一	ホバーリング
広島県	中西美佐江	「ナイス。ショット」
徳島県	清井 愛	かわいいタンポポ
大分県	工藤 哲男	Hero（ヒーロ）
千葉県	東 茂昭	2000年前の美「大賀ハス」
千葉県	中島 規雄	みつばちと香り
福岡市	中原 義隆	花の家族だんらん
福岡市	矢野 瑞穂	鯉の色模様

携帯フォートの部

【入賞】

県名等	氏名	題名
群馬県	石井 滝江	風船ガムドコモダケ
徳島県	森 光	大鳴門橋
徳島県	黒上 麻衣	天使が舞い降りる時
宮崎県	後藤美智子	初めてのプール
沖縄県	平良 佳之	暮れの明星





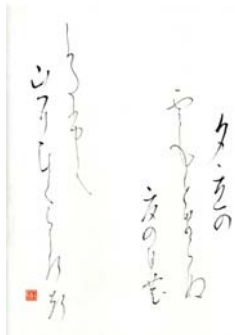
「書道 漢詩」
北海道 木間 登
すっきりとした暢達に富んだ線が明るく深い情趣を醸し出した佳品。長い鍛錬を想わせます。



「人が好き人偏が好き」信が好き」
滋賀県 七里 大輔
筋萎縮症に負けない力強い筆致は驚きです。強い精神性を見せた豪宕な作と言えるでしょう。



「わ」
奈良県 向井 隆裕
温かで和やかな情感を覚える作で作者のやさしさが滲み出ています。楽しく筆を運んでいる姿が目に見えます。



「夏歌」
長崎県 松岡サナエ
直筆での練度の高い暢達した線が互いに響き合って見事なハーモニーを奏でています。



「顔真臨」
長崎県 宮崎ミヤ子
顔法を十分掌中とした書き振りで線の粘りと強さは見事です。筆の躍動がよく出ています。



「青春時代」
宮崎県 金子 昭浩
しっかりとした起筆は真に楷書の典型を見る思いです。落筆の高さと迷いの無い筆が見事です。



「着脚下 足元をみなさい」
仙台市 齋藤さつき
軟毛の筆の特性を上手に引き出した見応えのある作です。作品の作り方を十分熟知しています。



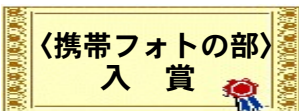
「ひらめ」
静岡県 渡邊 航輝
平目魚をスピードに乗った筆の動きで書き切っている。平目が動き出しそうで美味しそうに出来ている。



「游神」
浜松市 神谷かず子
右手の不自由さを感じさせない線の伸びやかさが魅力的です。見事に空間を捉えています。



「和歌」
福岡市 小田 隆
ゆったりとした動きが作品に余裕とやすらぎを醸し出して静寂さに満ちている。ゆるやかな呼吸は見事。



「天使が舞い降りる時」
徳島県 黒上 麻衣
逆光に輝く川面、広がる青空、輝く雲。かんじたままを素直に写していますね。空の明るいところを少し「焼きこんで」みるともっとよくなります。処理技術の勉強をしてみてください。



「風船ガムドコモダケ」
群馬県 石井 滝江
身近なもの、自分が大好きなものにカメラを向けて、要らないものを一切いれず、単純明快で申し分ありません。バックの色、明るさともに申し分ありません。



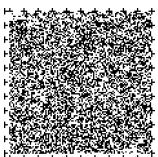
「初めてのプール」
宮崎県 後藤美智子
身近な家族の写真が主流になることが『携帯写真』の楽しさだと思います。ただ頭の上の部分の部分を少なくして、足元の水をもっと入れると楽しさが増します。

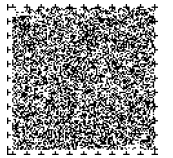


「暮れの明星」
沖縄県 平良 佳之
夕焼けの空、綺麗です。露出も構図も適正です。モニターでは納得とおもいますが、カメラの性能のせいで、描写力が足りず、プリントでは観るのが辛いのです。



「大鳴門橋」
徳島県 森 光
旅先で見上げた橋の力強さ、海と空と雲の印象をきっちり捉えていても、携帯のカメラの描写力がここまで来たのは驚きです。自信を持って続けてください。





〈写真の部〉
金賞



「夏の空」
岩手県 及川 卓郎
地上は暮れて、空だけが残光で濃い青。そこに火花がびたりと決まっている。感心しました。火花が上がる位置など、通いつめられて熟知の対象とお見受けします。感服。



「110ハードル競走」
山口県 大上 稔
始めに何気なく見て「迫力あるな」と素直に感じました。よくよく見ると現実にはあり得ない画面でした。加工、合成で現象のより本質的なものを表現する試みに賛成です。



「赤武者」
青森県 能登谷正光
フレーミング、露出、シャッターチャンスを含め、二人の赤い武者、そして緑の竜。周囲を処理してそれだけを浮かび上がらせた手法を含め、「すごい」と申し上げます。



「水掛けみこし」
宮城県 高橋 松夫
30Dの早いシャッター性能を活かして、水の形、人々の表情をびたっと捉えて最高です。勿論、シャッターチャンス、フレーミングの的確さあってのことですが。



「マイホーム」
福井県 坪田 時男
我が家の食卓で蜜のご馳走に夢中のバツ君を親しみを込めて写しているあなたの愛情が胸を打ちます。虫の緑と対照的な暖かい花の色も素敵な効果ですが、暖かい眼が素敵です。



「霧の朝」
山口県 勝野 峯夫
千載一遇の霧でありました。霧に霞んで行く橋の遠近感が素敵です。ただ、左のほうの霧だけの部分を少しカットして見るともっと締まった絵になったのではないのでしょうか。



「はす」
徳島県 K.I
花の写真はたくさんありました。あなたの写真の優れた所は、深い暗緑色の葉の広がりや花の対比の中に花の持つ生命力、神秘性を表していることだと思います。



「祐徳稲荷神社の田植え 巫女さん」
佐賀県 久原 国彦
脊振山系に北風を遮られ、南は有明海、そこに広がる筑後川水系のデルタ地帯、縦横にはいるクリーク。そのゆたかな大地に育った娘さんたちの健康な姿が溢れています。



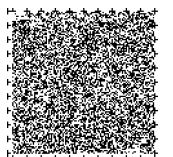
「稔り」
岐阜県 勝野 峯夫
「稔り」とはまた「豊かな枯れ」とも言えるようです。研ぎ澄まされた心と技をひしひしと感じます。貴兄より少し前に生まれた私ですが、未だに生臭さが捨てられませんが、

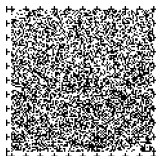


「落日の棚田」
福岡市 斉藤 新
唐津には古い水田の遺跡があります。大陸から水田稲作をもたらした人々が住み付き、ここから日本中に稲作が広がりました。渡ってきた人々にはどんな思いで故郷のほうに沈む夕日を眺めたのでしょうか。歴史の重みを感じさせる深い絵です。



「農婦とその子」
広島県 向井 昌彦
地貧しく、厳しい環境のなかで、すくなく背筋を伸ばして立つ農婦。子供は小さくも自然で気品がある写真です。人間の尊厳はこの人たちの中にこそあると感じます。





審査総評

(書道の部)

昨年に続いて審査を担当させて頂きました。今回の総出品数807点でした。今回の特徴としては知的障害者が425点と出品者の半数を越える勢いを見せた事です。これは各地の養護学校や施設単位ごとに書を通じてコミュニケーションを図る活動が一層活発となっている事を示していると思われます。父兄と地域の人々との一体感が近年深まりつつある様子が窺えます。

又交通事故等の増加による身体障害者の若年化も見られました。精神障害者の増加も顕著になって来ています。人間社会の複雑さと時間に追われて過ごす毎日で自分を見失う機会が多い様子が窺えて何か暗い気持ちになってしまいます。

しかし出品者全員が明るく、前向きに進もうとする懸命な努力を拝見すると何か救われる感じがします。清々しい作、体全体を用いた豪毅な作、又楽しく奔放性溢れる作等たくさんの傑作、力作が集まりました。全盲の方や口や足で書かれた方も居りました。決して健常者に負けないりっぱな作が多い傾向に進んでいます。訓練の賜物でしょう。大きな力を頂きました。感謝しております。

渡部 會山

(創玄書道会審査会員、毎日書道展審査会員)

審査員一覧 (敬称略)

渡部 會山 (創玄書道会審査会員、毎日書道展審査会員)

高岩 震 (フリーカメラマン、日本映画撮影監督協会会員)

金田 一郎 (財団法人 日本障害者リハビリテーション協会会長)

吉田 秀博 (全国身体障害者総合福祉センター館長)

(写真の部)

前回よりポートレートの部門がつくられました。しかし、その応募は少なく、いい作品もわずかでした。それに反して花の作品が多く、美しいものも多くなりました。花は種族保存のため昆虫を引き寄せるため何万年もの歳月をかけて自らを美しい形につくりあげ、その美を愛した人類が長い歴史のなかで手塩にかけてより美しいものに作り上げました。それに魅入られレンズを向けるのは自然なことです。

しかし、一歩退いて人間の美術の歴史を見てみると「人間にとって人間ほど美しいものはない」と言う精神が数千年の流れの主流です。

ギリシャの彫刻であれ、ルネッサンスの巨匠たちの作品であれ、戦後の木村伊衛兵さんの写真であれ、それは貫かれています。

しかし、今、現在の世相の中で、人にたいする信頼、愛情が失われていることも事実です。

そうであるからこそ、今、親、兄弟、友人、触れ合った町の人々の中に、その瞳の輝きの中に、微笑みの中に、美しいものを見つけ出して写し取り、「人間への信頼」を表現してほしいのです。

「写真とはレンズを通した隣人との対話」と思っ取り組んで頂きたいのです。

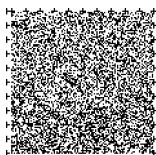
携帯フォトの部 (今大会より新設) に寄せて

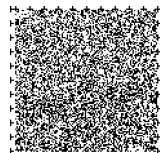
《携帯による撮影について》

確かに携帯のカメラは性能が向上して素敵です。でも、携帯カメラの特性は何時でも、どこでも写せることです。ハプニングに強いのです。その特性を生かしてどんどん応募して下さい。

高岩 震

(フリーカメラマン、日本映画撮影監督協会会員)





ドイツの地域障害者スポーツと指導者養成

太陽の家 自立訓練支援課
服部 直充

1. ドイツの障害者スポーツ概観

オランダのヨハン・ホイジンガーは、1938年に「ホモ・ルーデンス」を著し、知的人間を示すホモ・サピエンス以上に人間を示すにふさわしい言葉をホモ・ルーデンス（遊戯人）だと表しました。遊戯は、豊かな生命力を放出する自由な行動だと定義され、ホモ・ルーデンスとしての人間は、スポーツによって人間らしさを取り戻すことができるという考えが生まれたのです。

この思想の影響を受け、1959年ドイツでは、ドイツスポーツ連盟が「第二の道」という新しいスポーツ運動を展開させました。「第二の道」とは、子どもから高齢者、障害者も含めたすべての人たちが生涯にわたって楽しみや生きがいとなるスポーツを行なうという意味です。

ヨーロッパにおける地域密着型のスポーツクラブのシステムは、近年日本で推進されている総合型地域スポーツクラブのお手本となっていますが、ドイツは障害のある人々のスポーツとその指導者の養成に関してヨーロッパの中でも独自のシステムを作り上げていると言えます。ドイツでは国民の3割が何らかの地域のスポーツクラブで活動を行っており、障害者についてもこの影響を強く受けています。ドイツ障害者スポーツ連盟（DBS）の報告によると、2005年のドイツの障害者スポーツ人口は全国4,117のクラブに357,693人（うち21歳以下の障害者は31,902人）となっています。

1952年に設立されたドイツ障害者スポーツ連盟は、障害者のスポーツを大きく3つに分類しています（図1）。陸上、水泳、車椅子バスケットボー

ルなどを代表とする競技スポーツと、肢体不自由からガン、心臓病、薬物中毒までと幅広い障害者を対象にしたリハビリテーションスポーツ、主に楽しみや他の人たちとの交流を目的とした余暇と生涯スポーツです。競技スポーツ、リハスポーツ、余暇スポーツそれぞれのスポーツを同等に扱っているのが特徴で、性別に関係なく子どもから高齢者までその対象とする年齢や障害も幅広く捉えています。

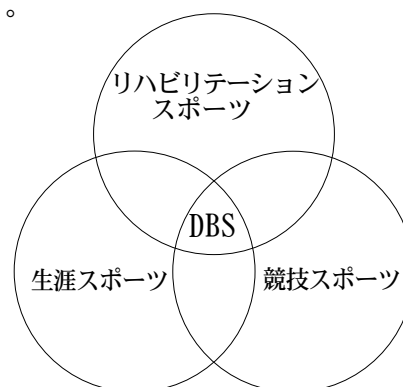
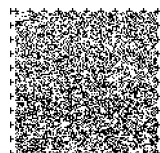


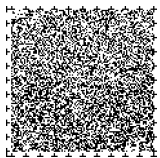
図1 ドイツ障害者スポーツ連盟の事業

2. 障害者の地域スポーツクラブ

ドイツの地域スポーツクラブは、一種目で組織化された単一種目型と複数の種目で一つのクラブを成す多種目型に分類でき、数人程度（最低7人）の小さなクラブから4～5千人の会員を擁する大きなクラブまでがあります。障害者の地域スポーツクラブも基本的には一般と同様なスタイルで組織・運営がされています。日本のような障害者専用のスポーツセンターはありません。

ケルンにある障害者版の地域スポーツクラブ「ケルン車椅子スポー





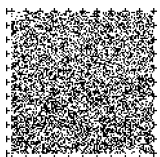
「ツククラブ」を紹介します。このクラブは、①車椅子バスケットボール、②卓球、③水泳、④ダンス、⑤電動車椅子ホッケー、⑥ウィルチェアラグビー、⑦キッズ&ユースで構成された多種目型の地域スポーツクラブです。会員数は約190名（2005年）で、それぞれの活動は、週1回を基本とし、レクリエーションとしてのスポーツの楽しみや他の人々との交流、障害者の社会への統合などを目的としています。一週間の活動は表1のように行われています。

表1 ケルン車椅子スポーツクラブの一週間の活動

曜日	時間	内容
月	18:00-20:00	水泳
火	19:30-21:00	成人の車椅子バスケットボール
水	18:00-19:30	卓球
	18:30-20:00	ユースのためのダンス
	19:45-21:15	ユース車椅子バスケットボール、車椅子ラグビー初心者
	19:45-21:45	女子車椅子バスケットボール
木	18:00-20:00	ユースのためのレクリエーションスポーツ、車椅子ラグビー
金	12:00-13:30	初心者向け水泳
	17:00-18:30	キッズのためのゲーム
	18:30-20:15	ユース車椅子バスケット、成人の車椅子バスケット
	19:00-20:30	初心者向けダンス

クラブは自立自助の方針で運営されていますが、州の障害者スポーツ協会やドイツ車いすスポーツ連盟（DRS）などからの支援体制が整えられています。例えば、クラブの運営資金は基本的に会員の納める会費でまかなわれていますが、体育館などの施設整備費や使用料に関しては、自治体からの補助金や優遇措置が受けられます。

ただ、近年健常者を含むドイツ全体のスポーツクラブの傾向として新規加入者の減少



やクラブ離れという現象が起きているのも事実のようです。この状況に対して、ドイツウィルチェアラグビー協会の開発担当理事であるストロケンデル博士（ケルン大学）は、興味深い取り組みを行っています。それは受傷後間もない障害者のクラブへの加入は難しいため、ドイツ各地で行われる福祉機器展にブースを設け、クラブメンバー自らがウィルチェアラグビーの宣伝と勧誘を行い、効果をあげています。

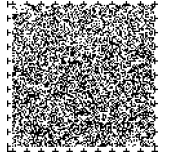
3. 指導者の養成

ドイツでは、地域の障害者スポーツクラブで活動する指導者をリハビリテーションスポーツ指導員と呼びます。その養成はドイツ障害者スポーツ連盟（DBS）もしくはドイツ車椅子スポーツ連盟（DRS）が主催する講習会によって行われています。障害や疾患別に指導者の養成が行なわれていることから、もともと医学的・治療的側面の影響を受けている印象があります。

リハビリテーションスポーツ指導員の養成講習会を受講するにはボランティアなどとしての実績が必要となります。資格の取得には2週間にわたる120時間の講習（16時間の救急法と14時間の実習を含む）を受けなければなりません。自分がかかわっているクラブのスポーツ指導・コーチングだけでなく、組織運営や経営などマネジメント能力の向上にも力を入れています。資格取得後に正



ヨーロッパで人気の電動車椅子ホッケー



式にクラブのコーチやマネージャーとなり、1回の指導でクラブから15～20ユーロ（2007年12月現在、1ユーロは160円程度）が支払われます。また、4年に一回更新のための講習が義務付けられているのが特徴です。

リハビリテーションスポーツ指導員は、障害者が主に地域で日常的にスポーツを行なっていくことを支援しています。障害者がスポーツに取り組むことでQOLを豊かにするという視点、また社会参加やインテグレーションの促進に重点を置いていると言えます。



ウィルチェアラグビーの練習風景

4. 医療スポーツから地域での生涯スポーツへ

筆者は、2005年にハンブルクにある労災リハビリテーションセンター（700床）で2週間の研修を行いました。ここでは、理学療法、作業療法、言語療法などと並行してスポーツセラピーが行われています。7人の専任のスポーツセラピストがいて、一日約140人の利用者がスポーツセラピーを行っていました。患者は、ドクターからの処方によりスポーツセラピーを開始し、スポーツセラピストが一对一で指導します。2回目以降は、各自が自主的にできるような運動メニューを提供します。ドイツではこの病院に限らず、障害を負って

比較的早い時期からリハビリテーションの一環としてのスポーツセラピーが行われています。退院が近づくと、地域のスポーツクラブ等を紹介して、自宅に帰ってもできるだけ運動が続けられるよう配慮しています。

急性期の医療から地域でのスポーツで、最も系統だっで行われている疾患の一つに心臓病があります。急性期を過ぎた後、回復期のリハビリテーションは、約3週間、都市郊外にある滞在型のリハビリテーション病院で、自転車エルゴやグループ

訓練などのスポーツセラピーが行われています。退院後の維持期のリハは、地域のスポーツクラブに所属し、数十人単位のグループでのスポーツセラピーが生涯にわたって行われ、有期限ですが、保険からの支払いがあります。

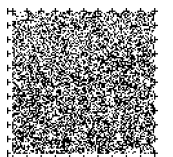
ドイツでは、障害者スポーツの関連雑誌が月に5誌発行されていて、そのうち2誌は一般の書店でも売られています。他の3誌は障害者スポーツ連盟や脊髄損傷者協会などが毎月発行し、施設や病院、養護学校、スポーツ指導員などへ配

布しています。ドイツでは、こうした情報誌が、多くの障害者がスポーツを始めるきっかけとなり、地域での生涯スポーツ継続の動機付けとなっているようです。

《参考文献》

中村太郎：パラリンピックへの招待，岩波書店，2002

ドイツ障害者スポーツ連盟：<http://www.dbs-npc.de/>



最新福祉用具紹介

— 福祉用具研究開発助成事業で実用化されたもの —

財団法人テクノエイド協会

当協会では、障害者・高齢者の方々の自立の促進と介護に当たる方々の介護負担の軽減を図るための福祉用具の実用化を目指して「福祉用具研究開発助成事業」を実施しています。20年度事業分の募集が11月30日で締め切られましたが、90件の応募がありました。これから福祉用具研究開発委員会で審査を受け、5月上旬には採否が決定します。

実施している助成事業により実用化された事例を紹介させていただきます。なお、福祉用具に関する情報は当協会のホームページでご覧になれますのでご利用ください。

財団法人テクノエイド協会ホームページ
(<http://www.techno-aids.or.jp/>)

姿勢支持性能と通気性を両立させた姿勢保持バギー

商品名「ラッピー」

社会福祉法人
神奈川県総合リハビリテーションセンター

はじめに

座位保持装置は、重症心身障害児（者）の抱える問題を改善するためのひとつの手段といえる。また、座位保持装置は障害が重度になるにつれて、身体支持面を大きくする必要があり、発汗や高体温（うつ熱）の問題が生じやすい。

ラッピー（図1）は、今までの座位保持装置では、困難であった点を改善できるバギーとして開発を行ってきた。



図1 ラッピー



バギーの特徴

フレームは多くの調整機構（図2）を備え、ティルト機構の他に、リクライニング角度やアームサポート角度（オプション）、シート奥行き、フットサポートの調整が可能である。また、姿勢保持機能として、シート前方、骨盤、体幹部にL型サポートフレームを取り付け、サポートベルトを張ることにより、利用者の身体状況に合わせた幅広い調整が可能で、セラピストなど調整者の求めるコンセプトに沿ったシート形状を作ることができる。

これらの調整機構を備えて、総重量は15kgと軽量である。

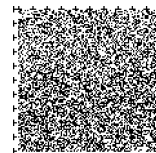


図2 調整機構とL型サポートフレーム



図3 三次元構造ネットシート（3Dネットシート）

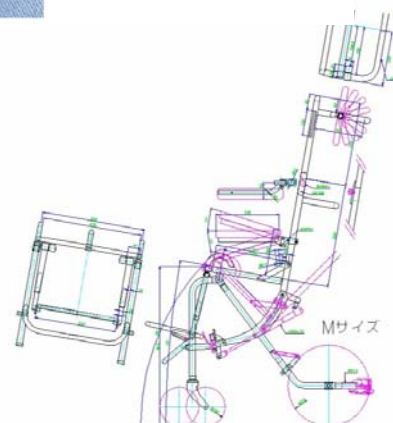


図4 市販モデルの図面

シート素材は、一般の福祉用具に使用されるシート素材と比べると、通気性、クッション性にも優れ、耐久性もある3Dネットシート（図3）を使用している。

市販モデルの設計

プロトタイプでの試乗評価、アンケートを繰り返し、結果からティルト角度の増加や折りたたみ機構の改良、サポートフレームの寸法変更などの設計変更を行い市販モデルフレームの製作を行った。（図4）また、シートの立体裁断と縫製を行うことにより、フレーム形状や身体にフィットしやすいシート設計も行った（図5）。

まとめ

ラッピーは、姿勢支持性能に優れたバギーでなおかつ軽量コンパクトである。また、身体支持面が広く、安定した座位姿勢をとることを可能にしつつ、発汗や高体温（うつ熱）等の問題を軽減するという、今までの座位保持装置では困難であっ

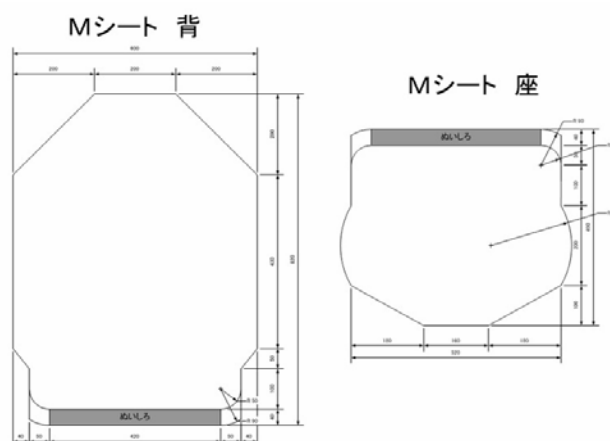
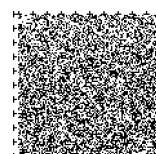


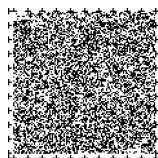
図5 立体裁断シート形状図面

た点を改善できた。多様な調整機能により、その場でセッティングができることから、従来の座位保持装置を製作する過程である、採寸・仮合わせ・適合の一連の作業において、迅速な対応が可能で、使用者や介助者だけでなく、セラピストや製作側の負担もかなり軽減できる。

おわりに

ラッピーは、ハード面・身体支持手法などのソフト面、利用者や介助者、





調整者や製作側の身体的、経済的負担の軽減など、今までの座位保持装置では困難であった点をトータルに改善

できるバギーである。

仕様については以下のとおりである。

ラッピー仕様 (サイズ：S・M・L)

ティルト (床面に対して 10° ~55° 無段階) リクライニング (90° ・100° ・105° ・110°)
フット・レッグサポート角度可変・長さ調整、フットサポート角度可変、折りたたみ機構

標準装備：フレーム本体、シート、サポートパーツ

サポートパーツ：L型サポートフレーム (2種類4本)、セパレート仙骨骨盤サポートベルト、大腿部サポートクッション、サポートベルト、フット・レッグサポート、骨盤ベルト

オプション：追加L型サポートフレーム、サポートベルト、アームサポート、日よけ、サイドガードなど

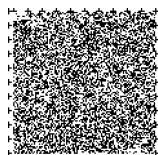
サイズ		S		M		L	
		身体寸法	フレーム寸法	身体寸法	フレーム寸法	身体寸法	フレーム寸法
年齢 (歳)		2 ~ 4		5 ~ 8		9 ~ 12	
身長 (mm)		~1100		約1100~1300		約1300~1600	
座高	バックサポート高	~630	660	630~670	710	670~	810
骨盤高		~130	※1	130~140	※1	140~	※1
肩幅	バックサポート高	~290	349	290~320	409	320~	459
座位臀部	仙骨・骨盤サポート幅	~230	※1	230~240	※1	240~	※1
座底長	シート奥行き	~300	300~380	300~330	300~380	330~	300~380
下腿長	フット・レッグ・サポート高	~260	220~320	260~300	220~320	300~	220~320

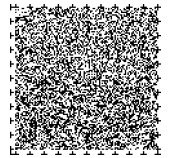
単位：mm

※1：L型サポートフレームの種類・取り付け位置などによって異なる。



助成事業に関するお問い合わせ先
財団法人テクノエイド協会 開発部
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザ4階
電話 03-3266-6881
FAX 03-3266-6885





社会保険 Q&A

(問) この春、納付したはずの年金記録がないといわれた人が、時効により消滅した分を含めて年金を受給したとっています。どんな手続きを取ったのでしょうか。

(答) 1 年金記録確認第三者委員会の発足

国民年金保険料を毎年納付してきたにもかかわらず、社会保険事務所で納付した記録がないといわれると、確かに納付したという領収書などの証拠を示して確認してもらうことになります。しかし、領収書などの証拠書類がない人のために、本人の立場に立って、公正に判断を行う「年金記録確認中央第三者委員会」が設置され、都道府県（全国に50か所ある管区行政評価局・行政評価事務所）に「地方第三者委員会」を発足させて、身近なところで対応できるようになっています。

「地方第三者委員会」への申込みは、最寄りの社会保険事務所で7月17日から受け付けています。

記録がないとされたことについて、相談者が委員会への申込みを社会保険事務所で受け付けてもらい、それを委員会へ転送し、審議、結論を得たものが、相談者に通知され、社会保険庁で記録の訂正、年金額に反映するという仕組みとなっています。

2 「年金時効特例法」の施行

年金記録の管理に対する国民の信頼を確保することを目的として、年金記録の訂正による年金の増額分は、時効（5年）により消滅した分を含めて、本人又は遺族へ全額を支払うため、今回、「年金時効特例法」が制定され、平成19年7月6日から施行されました。

これまでは、年金記録が訂正された結果、年金が増額となった場合でも、時効消滅により、直近の5年間分の年金に限って支払われてきました。

今後は、時効消滅により受け取ることができなかった分も全期間さかのぼって支払われます。

(1) 対象となる方

① 既に年金記録が訂正されている方

- ア 年金記録の訂正により年金額が増えた方
 - イ 年金記録の訂正により年金の受給資格が確認され、新たに年金を支払うこととなった方
- ア及びイの方には、年金（老齢・障害・遺族）の時効消滅分が全期間さかのぼって支払われます。

ウ ア・イに該当する方が、亡くなられている場合には、その遺族の方

未支給年金の時効消滅分が支払われます。

(2) 今後、年金記録が訂正される方

今後、年金記録が訂正された結果、上記アイウと同じように年金額が増える方（増額された年金や未支給年金が全期間分支払われます）。

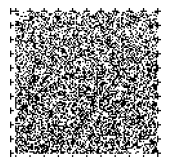
(2)の方は、記録の訂正の手続き以外に特別の手続きは必要ありません。①の方は、社会保険事務所に必要な書類を提出することになります。

お尋ねのありました方については、これらの手続きを経て受給されたものです。

詳しくは、最寄りの社会保険事務所にお問合せ下さい。

（回答：社会保険労務士

高橋利夫）



「認知症のある人の福祉機器展示館」への招待

国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部
石渡利奈・武澤友広

1. 「認知症のある人の福祉機器展示館」オープン

「認知症のある人の福祉機器」と聞いて、あなたはどんな機器を思い浮かべますか？ピンと来ない方が多いかもしれません。また、思いつかれたとしても、徘徊感知器といった介護者を支援する機器なのではないでしょうか。

平成19年12月7日（金）、埼玉県所沢市にある国立身体障害者リハビリテーションセンターに新しい施設がオープンしました。その名も「認知症のある人の福祉機器展示館」です。ここには、介護者を支援する機器はもちろん、認知症当事者を支援する機器を多数展示しています。

これまでの国内における認知症者の生活支援は、家族やケアワーカーによる介護、つまり「人による支援」が中心でした。しかし、わが国の認知症高齢者数は、2020年代には80歳以上の高齢者の4、5人に1人に達すると推計されており、深刻な介護力不足に陥ることが懸念されています。このような背景のもと、今後の認知症者支援策として、従来の「人による支援」のみに頼らない、新たな支援策が求められています。その新しい支援策として期待できるのが、「福祉機器による支援」です。

近年、海外では、認知症当事者の自立を支援する機器が開発され、積極的に機器の導入が進められるようになってきました。機器の適合・評価に関する研究も進んでおり、認知症ユーザーを対象とした専門の機器オンラインショップでは、簡単に機器を購入することができます。一方、国内では、認知症者の自立を支援する機器はほとんど知られておらず、情報を入手する手段や機会も限られていました。

本展示館では、認知症者の自立を支援する機器を集めて展示することで、当事者や介護に関わる方々に機器の情報を提供し、機器を用いた今後の認知症者の自立を促進していきたいと考えています。また、機器の開発者の方にも、実際の機器を通じて機器ユーザーとしての認知症者の生活やどのような機器を必要としているかのイメージを持っていただくことで、今後、国内における機器開発を活性化していきたいと考えています。



図1 認知症のある人の福祉機器展示館の外観

2. 認知症者の福祉機器の紹介

「認知症のある人の福祉機器展示館」は、当センターの障害者用モデル住宅（図1）に開設しています。この展示館では、テレビのリモコンはリビングに、薬入れはダイニングにというように、機器をそれぞれが使用される生活空間に展示しているのが特徴です。

以下で、代表的な機器をご紹介します。

(1) デイプランナー

リビングに入ってすぐ目に入るのが、「デイプランナー」という名前の、大きなスケジュールボードです（図2）。ボードの左側に時間を表す数字が縦に並んでおり、そのすぐ右隣にランプの列があります。これは、時間把握とスケジュール管理を支援する機器です。「もうそろそろ昼ごはんの時間だ。食事をとろう。」「今日は病院に行く日だ。〇時頃になったら出かける用意をしよう。」など、健常者は時間と予定を把握

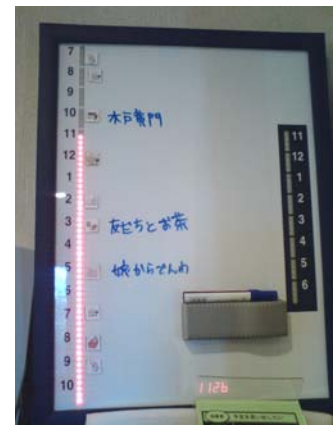
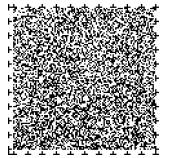


図2 デイプランナー



した上で、とるべき行動とそれにかかる時間を見積もり、行動を選択しています。しかし、認知症の中には、「もうそろそろ」といった曖昧な時間感覚を把握したり、行動に必要な時間を見積もることに困難を覚える方が多くいます。時間の見通しが見つからないと、行動を計画することも難しくなります。そこで、デイプランナーは、点灯しているランプの量で日中の残り時間を、消灯しているランプの量で経過した時間を示すことで、時間の量を目で見て直感的に把握できるよう支援します。例えば、「晩ごはんを食べる7時まで、点灯しているランプが多いから、だいぶ時間があるわね。部屋に戻って、掃除でもしようかしら。」というように、次の予定までの残り時間を確認した上で、活動の計画を立てることができます。このように、デイプランナーは活動の自己決定を支援します。

(2) リマインダー

「デイプランナー」の隣には、黒いボディの「リマインダー」があります(図3)。リマインダー下の青いボードは、予定を音声で録音するためのボードです。このボードを利用し、「どこ(場所)で、だれ(名前)さんと会う」といったメッセージをあらかじめ録音しておきます。外出する際に、ボードからリマインダーを取り外して携帯すれば、外出先であっても、家で録音したメッセージがセットした時間に再生されます。この機器は、予定に関する記憶が低下しやすい認知症者が「思い出したい時間」に予定を思い出し、実行することを支援します。



図3 リマインダー

(3) シンプルリモコン、メモリーフォン

次に、「シンプルリモコン」を紹介します(図4)。一般に使用されているリモコンと比べると、シンプルリモコンはボタンの数が少なく、1つ1つのボタンが大きくなっています。ボタンの種類が多いリモコンを、記憶力が低下した認知症者が操作しようとした場合、「チャンネルを変えたいんだけど、どのボタンを押せばよかったかしら。」というように、操作に必要なボタンの種類を



図4 シンプルリモコン

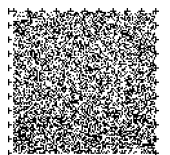


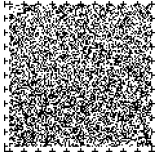
図5 メモリーフォン

思い出すことが難しくなります。また、押すべきボタンの種類を思い出せたとしても、注意力の低下から、たくさんのボタンの中から自分が押したいボタンを見つけ出せないこともあります。そこで、シンプルリモコンは、ボタンの数を極力少なくしているのです。特に、図4の左側に写っているリモコンは、電源ボタンが1つ、チャンネルを変えるためのボタンが2つ、音量を調節するためのボタンが2つ、消音ボタンが1つの、計6個のボタンしかありません。また、ボタン1個1個の大きさも、見つけやすく、押しやすいように、大きく、色も認知症者の注意をひきつけやすい赤色になっています。この配慮により、「テレビのチャンネルを見たい番組に変える」ことが可能になります。この他にも、操作に必要なボタンを少なくした家電として、話したい相手の顔が表示されたボタンを押すだけで、電話をかけることができる「メモリーフォン」(図5)があります。また、海外では、認知症当事者からのニーズに基づいて、電源ボタンを押すだけで音楽を自動再生できるCDプレイヤーも開発されています。

(4) アラームつき薬いれ

図6の「アラームつき薬いれ」は、海外で最も普及している機器の1つです。認知症の中には、記憶の再生力の低下のために、「〇時に3錠飲む」といった服薬に関する専門医からの指





示を思い出すことが難しい方がいます。服薬に関する指示を、薬を飲む時刻に思い出せないと、決まった時間に適切な量の薬を飲むことが難しくなります。この「アラームつき薬いれ」は、薬を飲む時間にアラームを鳴らし、薬を飲むよう促します。アラームと同時に、小さなセルが1つだけ開き、1回に飲む分だけの薬を取り出せるようになっています。アラームは放って置いても止まらないように設定でき、薬入れをひっくり返して、薬を出す（図6の右図）ことで、アラームが止まります。

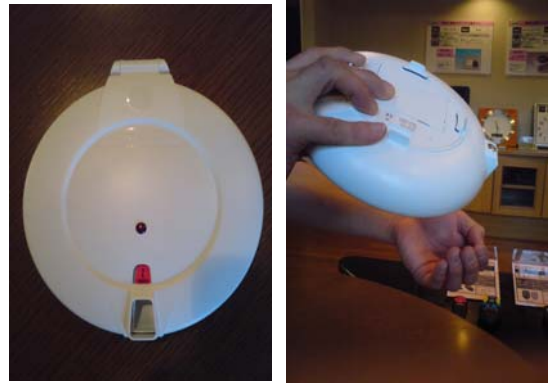


図6 アラームつき薬いれ

(5) コミュニケーションロボット

次は、情緒の安定に役立つ機器として、「コミュニケーションロボット」を紹介します（図7）。認知症者の中には、認知機能の低下から、以前のように日常の活動をうまくこなすことができないためにストレスを感じたり、気分が落ち込み、活動に対する意欲が低下してしまう方がいます。このアザラシ型のロボットは、身体をなでたり、声をかけたりすると、それに反応して動いたり、鳴いたりします。このロボットを認知症高齢者を対象にしたセラピーに用いた研究により、ストレスが減ったり、活動への意欲が出てきたりと、心理的な癒しの効果があることが明らかになっています。

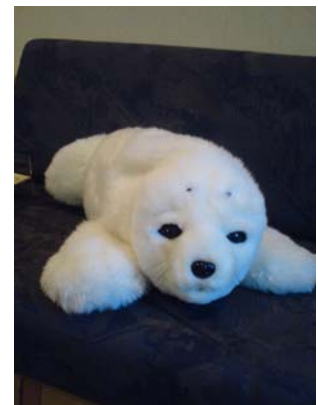


図7 コミュニケーションロボット

(6) コンロセンサー

最後に、海外で研究中の「できること」を活かす機器「コンロセンサー」を紹介します。鍋に火をかけたことを忘れ、焦がしてしまう、といった失敗が度重なることにより、認知症者が調理を続けることを家族から止められたり、自ら継続を断念してしまうケースがあります。このようなケースでは、火を消さなければならないことをタイミングよく思い出せない点に問題があります。このため、「消すことの思い出し」を支援できれば、火の消し忘れを防止し、調理という「できること」の継続を実現できる可能性が高まると考えられます。「コンロセンサー」は、この支援を行う機器であり、コンロの温度が上がると、使用者に音声で消火を促して、思い出すきっかけを与えます（図8）。また、促しにも関わらず火が消されない場合は、自動的に消火を行うフェールセーフ機能が働き、万が一の鍋の焦げつきや火災を防ぎます。このように、「コンロセンサー」は機器側が勝手にコンロを止めるのではなく、利用者にコンロを止めるきっかけを提供することで、認知症者の自立を支援しています。

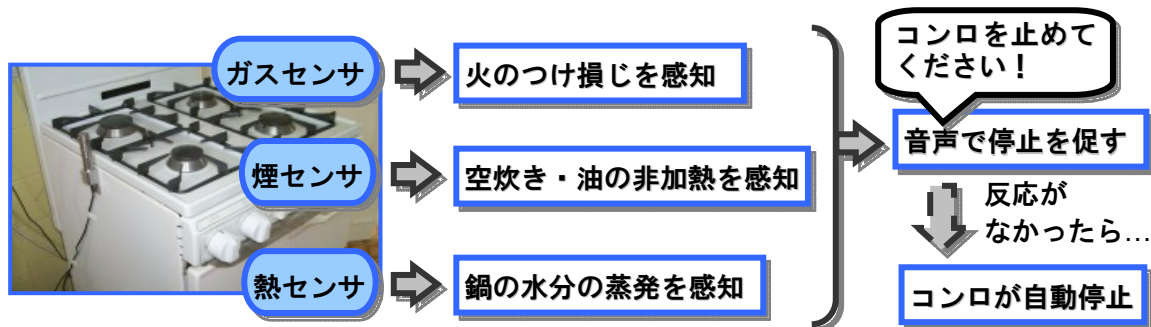
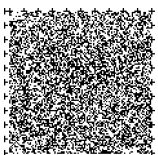
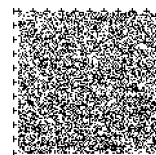


図8 コンロセンサー

3. 「認知症のある人の福祉機器展示館」に是非、いらしてください

この他にも、展示館には、探し物の場所を知らせる「探し物発見器」や夜中にベッドから起き出した時に自動的に寝室の明かりをつける「ナイトランプ」など、50点以上の機器を展示しています。また、既製品だけではなく、現在研究中の最先端の機器も、パネルで展示しています。是非、お越しいただき、機器を見て、触って、体感してください。





日常生活で法律上の問題について、お悩みはありませんか？ 年金について分からないことはありませんか？

戸山サンライズでは、平成20年度も引き続き、毎月1回特別相談日を設け、専門家が法律と年金に関する様々な問題に、明快にお答えしています。料金は無料、時間は13:00~16:00です。

法律相談 弁護士 野村 茂樹 氏
年金相談 社会保険労務士 高橋 利夫 氏

平成20年

4月9日(水)	5月14日(水)	6月11日(水)
7月9日(水)	8月6日(水)	9月10日(水)
10月8日(水)	11月12日(水)	12月10日(水)

平成21年

1月14日(水)	2月18日(水)	3月11日(水)
----------	----------	----------



また、その他に義肢装具に関する相談や障害者福祉に関する相談もお受けしております。

※申し込み方法：来所・文書・電話（FAX）・メールにて随時受け付けておりますので、詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせください。

電話 03-3204-3611 FAX 03-3232-3621 E-mail hiroya@abox3.so-net.ne.jp

相談室担当 廣田

SPコードについて

SPコード専用読み取り装置「スピーチオ」、「テルミー」を使って、紙に印刷されているSPコードを読み取ることで、記録されている情報を音声で、また点字プリンターと接続すれば点字で、パソコンに接続すればテキストで出力することができます。SPコードの右（あるいは左）にある切りかきは、視覚障害の方が、コードのある場所を認識するためのものです。「スピーチオ」、「テルミー」は日常生活用具として認定されています。



スピーチオ



テルミー

戸山サンライズ (通巻第236号)

発行 平成19年12月10日 (隔月10日発行)
発行人 (財) 日本障害者リハビリテーション協会
会長 金田一郎
編集 全国身体障害者総合福祉センター
〒162-0052 東京都新宿区戸山1-22-1
TEL. 03(3204)3611 (代表)
FAX. 03(3232)3621
<http://www.normanet.ne.jp/~ww100006/index.htm>

編集後記

本年もどうぞよろしくお願いいたします。発行が大変遅くなってしまいましたが、最新号をお届けします。

今号では「第22回障害者による書道・写真全国コンテスト」の審査結果を掲載しました。審査会に同席したのですが、どの作品も力作揃いでした。入賞された皆さん、惜しくも入賞とはならなかった皆さんも、次のコンテストでの素敵な作品をお待ちしております！

(廣田)

